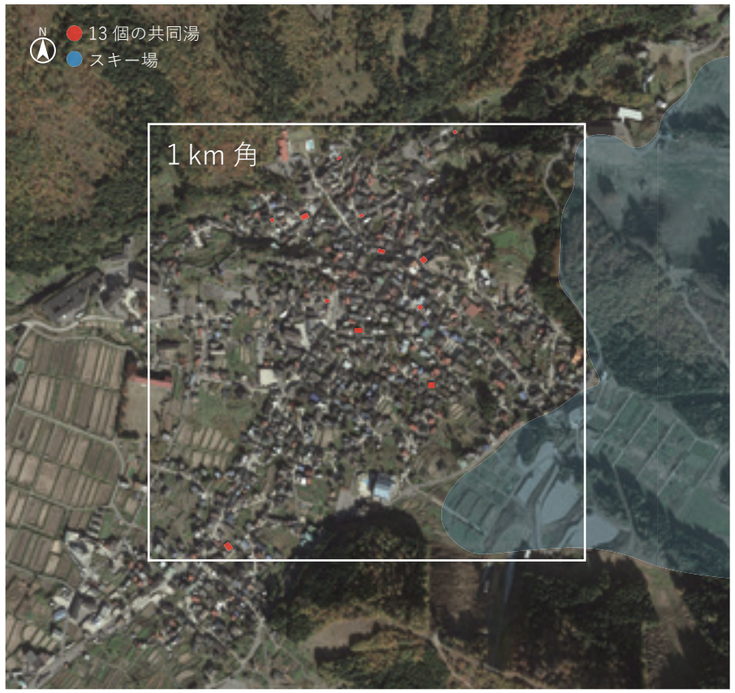
# お湯暮らし
## 共同湯の拡張

亀井美里

## 1．敷地____温泉のまち、野沢




### □お湯に集まる野沢の歴史

**縄文時代**
川辺の平地で生活していた。

**鎌倉～江戸**
山間に温泉を発見し、共同湯の周りに集まって住むようになる。
山の向こう側からの来客で湯治場としても栄えた。

**大正～現在**
野沢に日本初めてのスキーが伝来し、スキーブームが起こる。
13 個の共同湯とスキーに人々が集まる。

### □共同湯と野沢の風景　１３個の区がそれぞれ共同湯を持つ

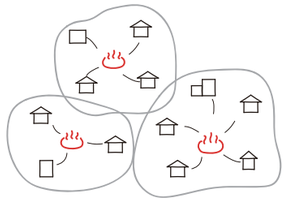
### □お湯と暮らし　お湯は野菜の下ごしらえや調理、洗濯などにも使われる。麻釜（写真右２つ）は村の台所と呼ばれる。

### □祭り市場　野沢は毎月催しや祭りが行われ、春～夏には毎週末市場が開かれる。入浴以外で日常的に村人が集まる機会が多くある。

## 2．リサーチ____温泉の街、野沢の構造とお湯の公共性

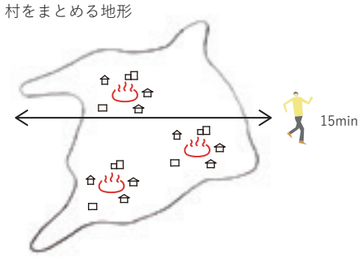
### □野沢の構造

・お湯に通う生活



13 個の区がそれぞれ共同湯を持ち、
住民が湯仲間を形成して維持・管理を行う。
毎日お風呂の時間になると
お風呂セットを持って自分の区の共同湯に通う。

・村をまとめる地形




山と川に囲まれた地形が、村としてのまとまりを作っている。
端から端まで歩いても１５分ほどのコンパクトな街。
野沢の住民は、村全体を生活圏としている。

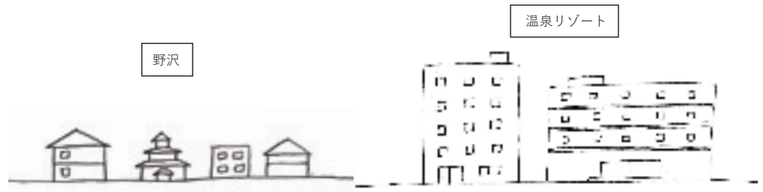
・共同湯周辺が広場である

野沢の祭りや催し、市場は共同湯周辺が開催地となる。
住民は入浴時以外にも共同湯に集まる。それぞれの共同湯が
中心性を持ち、13 個の共同湯全体が村の骨格を成している。

・源泉が広場である

80 度の源泉が毎分 500L 湧き出る麻釜は、
大きな源泉広場となって住民の台所としても使われる。
共同湯の多くが麻釜から湯を引く。

・温泉街のスケール



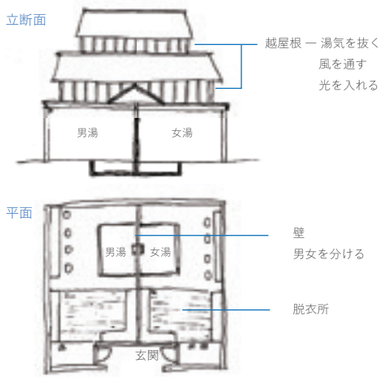

野沢の温泉の権利は、室町時代の「惣」を発端とし現在まで続く自治組織、野沢組が管理する。行政とは異なる組織が
温泉権を持ち、自分たちで運営することで、野沢の温泉は守られてきた。野沢の湯を守る体制のおかげで
温泉街によくみられる外部資本の参入が防がれ、野沢の心地よい小さなスケールが今も残っている。

### □共同浴場の起源と公共性

人類の歴史上、入浴行為とは集団で行うものであ った。古代ギリシャでは、入浴は自己表現や歌、踊り、スポーツと関わりがあった。
古代ローマではコミュニティセンターとして、食事や運動、読書や議論の場としての役割を果たしていた。また、様々な階級・人種の人々が接触するという民主的な役割を持つ場であった。
このように、共同浴場は様々な立場の人の様々な活動を受け入れる場所であり、都市のなかの公共の場としての可能性を持つ。

### □湯屋建築のつくり

野沢の共同湯の大半は、一般的な湯屋建築のつくりを用いている。
それぞれに大きな違いはなく、建築のつくりとしては一様である。




### □村の変化と課題

一人暮らしが難しくなった年配の村人は家を売り、村を出て都会の家族と住むようになる。
こうして空家が増え湯仲間が減り、共同湯の運営が難しくなっている。
また野沢の冬はスキー客で賑わい、海外客も多い。
冬場のみ野沢で暮らす海外移住者がこのような空家や宿泊施設を買収・改修し、
海外客に向けた内輪のビジネスを行う。
海外移住者はスキーを目当てとしており野沢のお湯暮らしへの理解が薄く、村人との関係が希薄である。

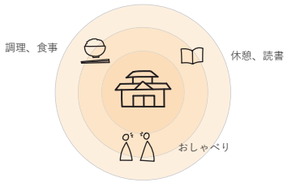
人の入れ替わりという変化が起こるなか野沢のお湯暮らしを継承していくために、
お湯のまちに集まる人々全員のための相互理解の場所、
お湯暮らしの魅力を共有する場所が求められる。

# 3. 提案____共同湯の拡張

共同湯を拡張、または入浴以外の生活の場所「待合い」を共同湯に加え、お湯暮らしを支える新たな骨格をつくる。
共同湯を、村人、他県からの移住者や滞在者（潜在的移住者）に加え、お湯への関心が薄い海外移住者も立ち寄れる場所にする。
様々な立場の人が村の魅力を共有し、お湯暮らしを継承していくための場所をつくる。

## □共同湯の拡張

お湯は公共性と多様な活動を支える力強さを持つ。
共同湯を拡張して入浴だけでない
その他の生活の共有を可能にする。




## □拡張の方法

共同湯の拡張方法は以下の 2 つ

① 共同湯をそのまま拡大し大きな千人風呂としたり、共同湯を広げて源泉広場としたりする。
② 共同湯に、入浴以外の生活の場（住居、洗濯場、調理場、湯治宿、休憩所、居間、書斎、畑など）を加えて拡張する。

このようにして拡張された部分を「待合い」と呼ぶ。
「待合い」を持つ共同湯は、
お湯を使うついでに集まって過ごすことで
お湯暮らしの魅力が共有されていく場所となる。

## □13 の「待合い」によるお湯暮らし

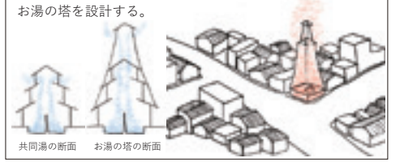
13 個の共同湯それぞれに違う機能、違う空間が加えられることで、
共同湯ごとに個性が出てくる。
2 か所以上の共同湯を利用したり、隣の共同湯に遊びに行ったり、
いくつかの区で協力して湯を管理したりして自分の区にとどまらない
村全体での暮らしが生まれる。

## □お湯暮らしの骨格をつくる 3 要素

村の構造や街に必要なものを手掛かりとして、お湯暮らしの骨格をつくる要素を 3 つにまとめ、その 3 要素を掛け合わせて建築を設計する。

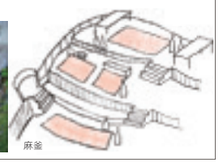
### ① お湯の塔

共同湯が高さのある塔のような形を持つことで、
共同湯が本来持っているシンボル性を引き継ぎ、
離れた場所からも場所がわかったり、村を歩いて巡るなかで
アイストップとなり、建築からは村の風景が見渡せる。
様々な立場の人が集まる場所としてまちなかの目印となる
お湯の塔を設計する。




### ② お湯の広場・大きなお湯

野沢の源泉、麻釜にみられるようなお湯の広場を設計する。
傾斜に沿って棚田状にお湯が広がる麻釜は、
生活の場でもあり、遊びの場でもある。
このようなお湯がつくる広場がお湯暮らしを支えている。

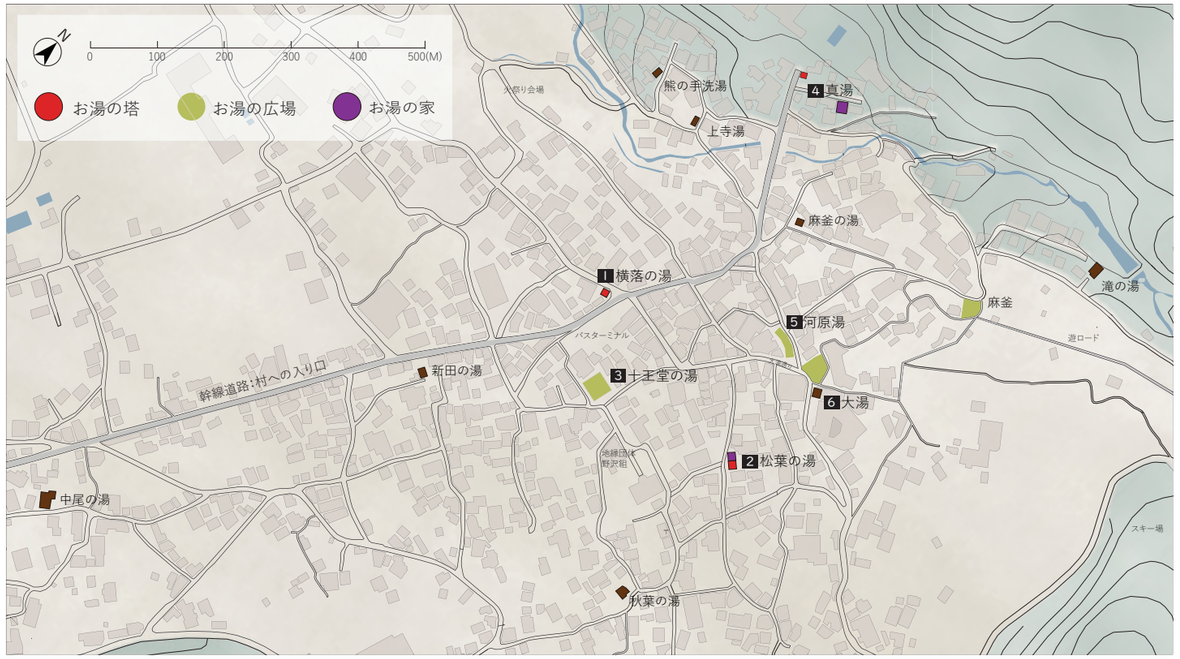



### ③ お湯の家

共同湯とともに住宅を設計する。
湯仲間が減り共同湯の維持が難しくなっている区がある一方
なかなか村に打ち解けられない移住者もいる。
共同湯に集まって住むことで、お湯を一緒に使うという
共通点で結ばれた湯仲間の結束が強まる。

## □全体配置図

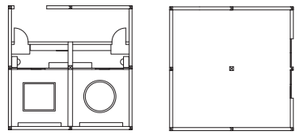
お湯の塔・広場・家の配置を、村の全体計画とそれぞれの敷地条件から決定し、13 個の共同湯のうち下記の 1 から 6 の 6 か所（建築は 7 つ）を設計する。



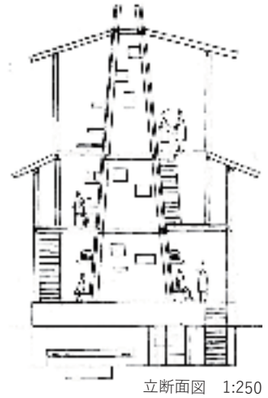

# 1 横落の湯____お湯の塔 〈改築〉

現状写真

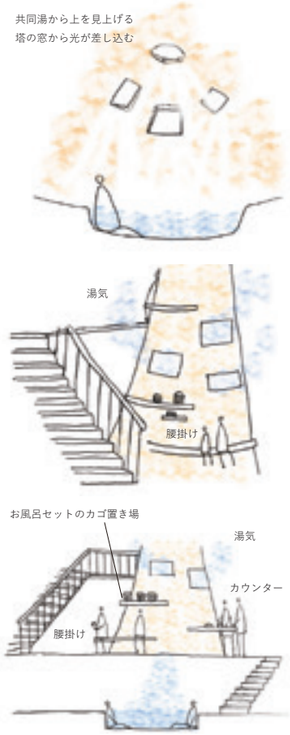
現状平面図 1:400

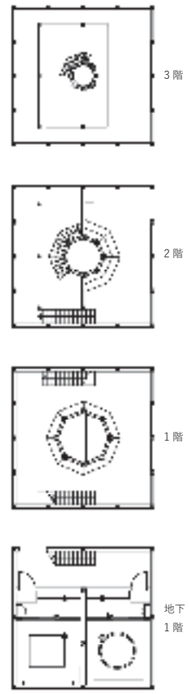



地下一階共同湯を残し、2 階 3 階を改築



立断面図 1:250



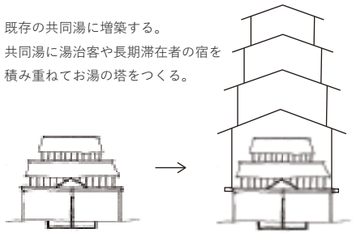

平面図 1:350

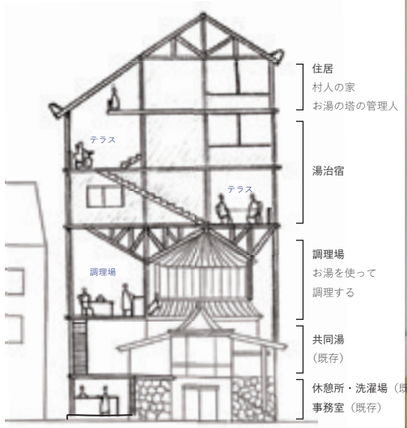
# 2 松葉の湯____お湯の塔 × お湯の家 〈増築〉

現状写真

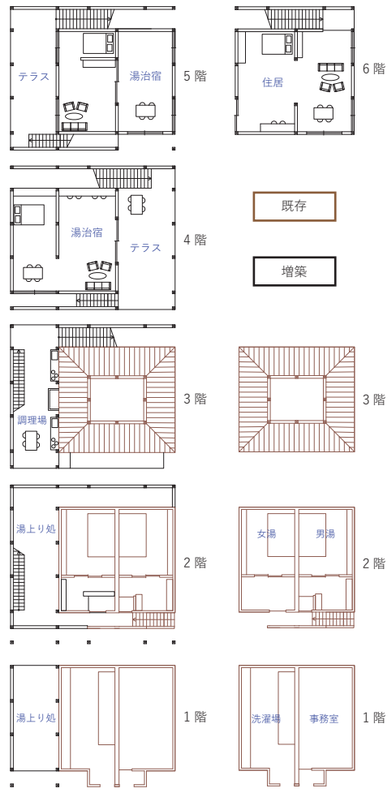
計画ダイアグラム

既存の共同湯に増築する。
共同湯に湯治客や長期滞在者の宿を
積み重ねてお湯の塔をつくる。






立断面図 1:350



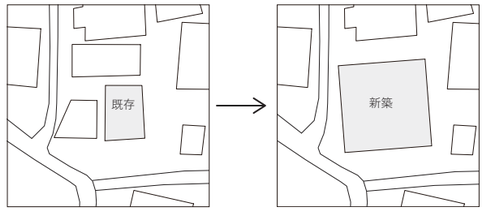

平面図 1:450

## 3 十王堂の湯____お湯の広場〈新築〉

現状写真

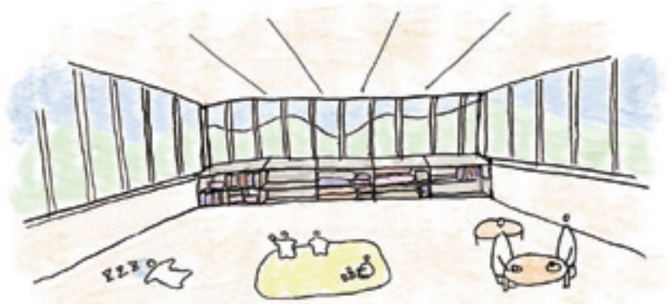
コンクリート造、1 階女湯、2 階男湯

計画ダイアグラム

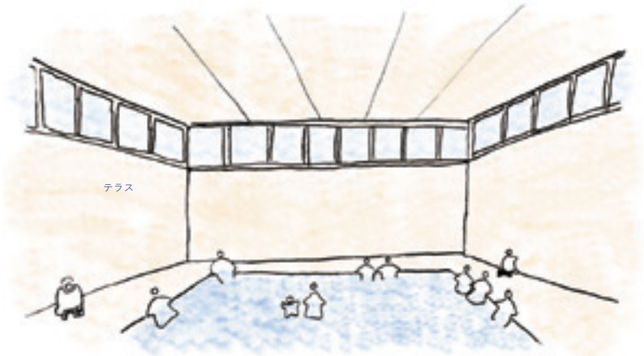



既存の共同湯の敷地を拡大して大きなお湯を新築する。

参考：酸ヶ湯温泉の千人風呂

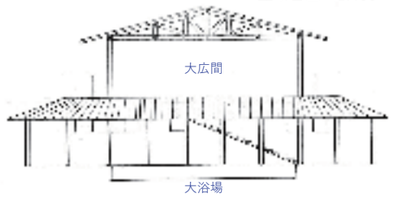


大きな広間ーお昼寝、あそび、団らん

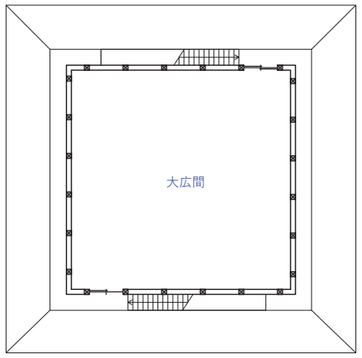



大きなお湯

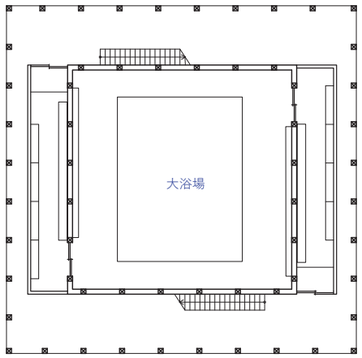
立断面図　1:400




平面図　1:400




2 階



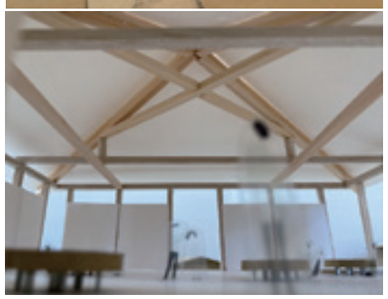

1 階

**2 階　大広間**

2 階は大浴場と同じ広さを持つ湯上がり処。
大きなお湯と大きな広間という街の大きな余白が
お湯に集まる人々を柔らかく受け入れる。
雨の日の遊び場にも、一時避難場所にもなる。

**1 階　大浴場**

1 階の大浴場は野沢の共同湯で
一番の大きさを持つ大浴場。



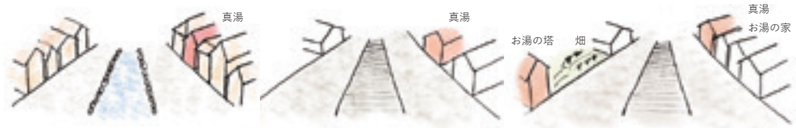
## 4 真湯____　お湯の塔〈新築〉・お湯の家　〈新築〉

現状写真

真湯

水路の通る道の両端に旅館が並ぶ
温泉街のつくりの名残が見られる

計画ダイアグラム

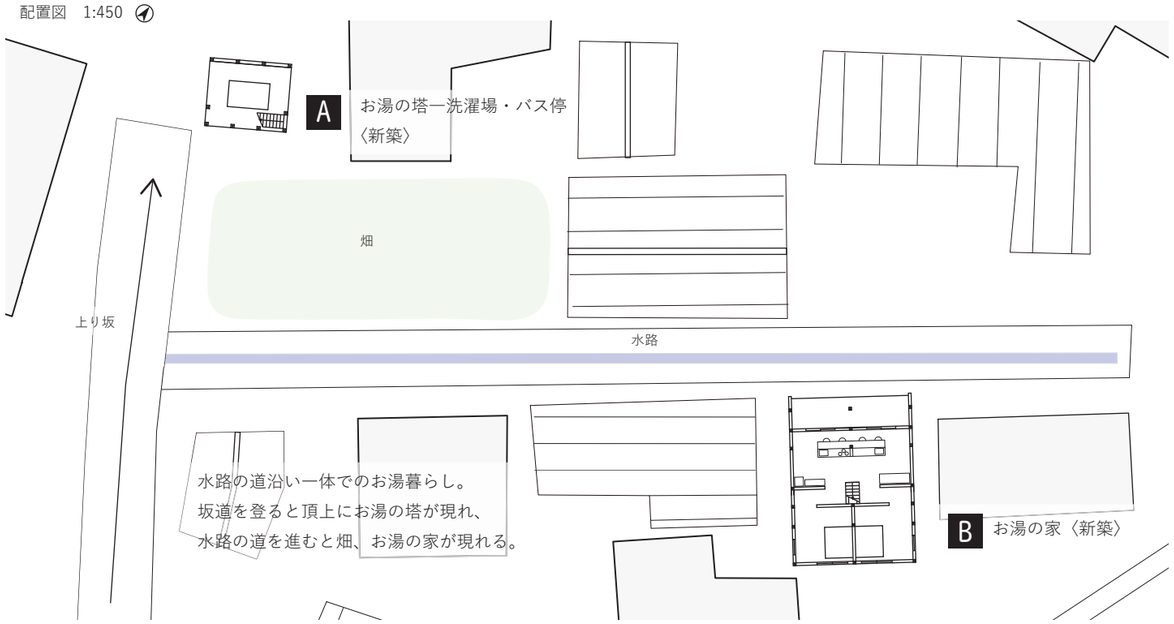



水路の通る道の両端に
旅館が並ぶ温泉街のつくり

空き地が増える

空き地にお湯の家とお湯の塔をつくり
湯仲間の生活を支える

配置図　1:450




**A**

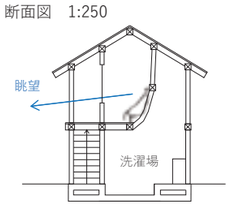
街の景色を眺める

なだらかな壁が身体を包み込む

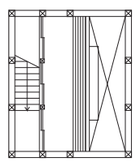
2 階　湯上り処

1 階　洗濯場

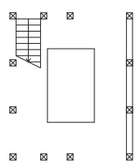
断面図　1:250




平面図　1:250



2 階

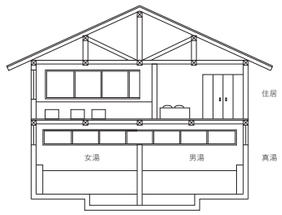


1 階

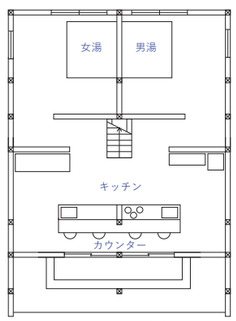
**B**

立面スケッチ

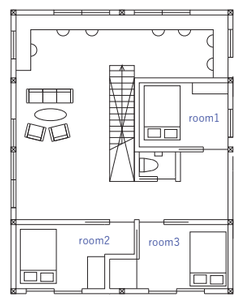
断面図　1:250




平面図　1:250




1 階　真湯・食堂



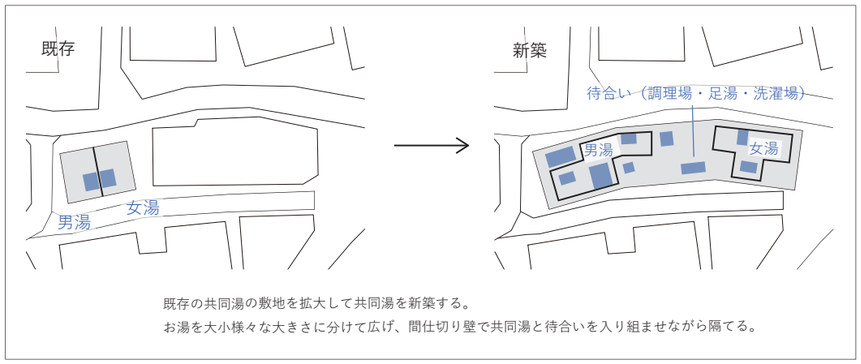

2 階　住居

## 5 河原湯____お湯の広場　〈新築〉

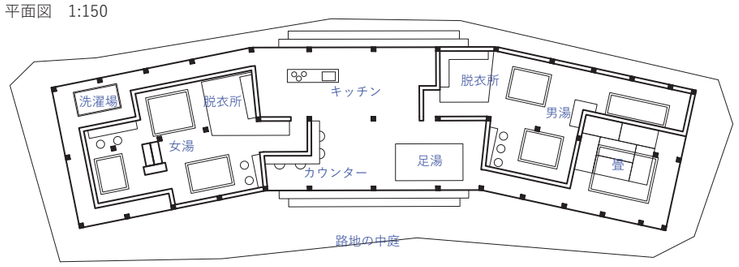
配置図　1:500

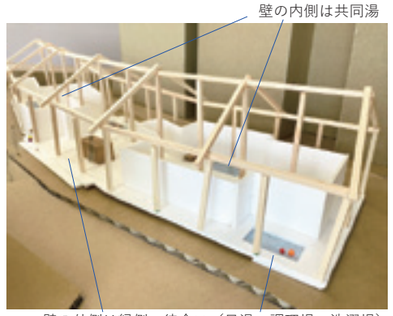
敷地周辺写真

計画ダイアグラム



平面図　1:150



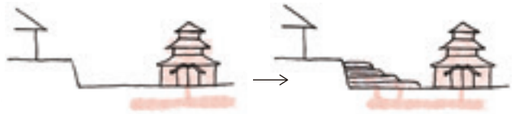



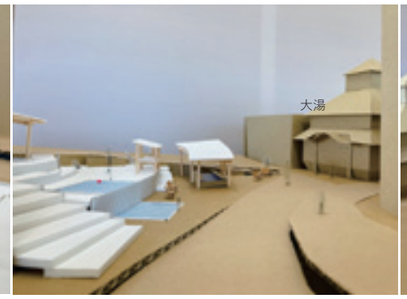

## 6 大湯____お湯の広場〈新築〉

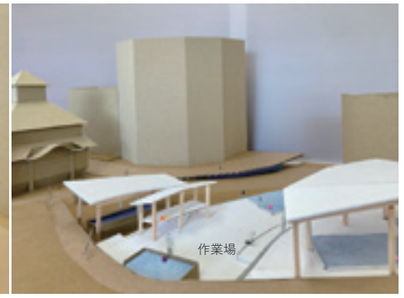
現状写真

計画ダイアグラム

大湯は、源泉をそのまま利用した共同湯であり、村一番のシンボルである。
大湯正面の高低差に沿って、階段状に大湯の源泉広場をつくる。






おわりに

お湯に人々が集まり、みんなで一緒にお風呂に入るという営みが野沢の原点である。
お湯という大きな総有財産を分けあって使っていくというこの村の構造が、村の暮らしの形となり、同じ土地に人が集まって住むことの面白さとなっている。
ここでは、人々の生活を街に拡張していき、それが共同湯とともに新しい形として現れることを考えた。
野沢のように街の成り立ちの背景に価値の共有がある土地において、その価値を回復したり、価値の新しい享受の仕方を可能にしたりする建築が、
街のシンボルとしてわかりやすく、住まいの延長としてあることは、その土地を住みつないでいく上での手助けとなるのではないだろうか。

手伝ってくれたみんな、野沢の皆さん、同期のみんな、先生方、本当にありがとうございました。

# Comments from Classmates

最終らへんで何がやりたいかわからなくなって２人で一平さんにボコボコにされたのいい思い出です（笑）けど、最終的にかめらしい建築 ( 幾何学 ) が建っていってよかったと思った！かめはかめにしかつくれないような素敵な建築をつくる才能があるな〜とずっと思ってます。最終直前の死にそうな時も電話して一緒に頑張ってくれてありがとう！

東野有希

居住単位、鎌倉のマーケット、図書館の三作品は覚えていて、毎回形の見方や使い方が面白いなと感じていた。今回の、筒状の湯気抜きを心柱にして建つ層塔のような形なんかも（湯気が室内に漏れるのはどうなんだろうと思いつつも）とても良かった。２階建ての建物の中心が貫かれていたり、既存の建築を飲み込んでいたり、ただ階の重なりが描かれるだけではない断面の面白さがあった。

髙橋健

強かな提案であるのに、ちょっと気の抜けた、たのしそうな形で街に還元されているのがいいなあと思いました。かめちゃんが作ったものだ、というのがちゃんと伝わってくる感じがして。前からそこにあったようだけど、どこか様子がちがう、みたいなこの建築たちが実際に街に並ぶのを見てみたいです。
毎課題たのしみにしていたかめちゃんの作品を、これからもみていたいです！これからもよろしくね。

榊原真歩

かめちゃんの断面的な造形はいつもすごいなと思います。個々の建築が均質にならずに、13 の待合いがそれぞれの個性を持って存在していて、楽しそうです。リサーチから提案に至るまで筋道が立っていて納得がいく反面、敷地設定や機能に関してはやや疑問に残る ( 細かい話だけど、住居や宿はこの規模でいいのか、洗濯場は今の時代に使われるのか、など ) 点がありました。とはいえ、一発屋的建築ではなく、野沢に関わる人たちの日常になるような場がいくつも用意されていて、魅力的な提案になっていると思いました！

馬場一輝

地元でも横浜でもない、野沢でいちからリサーチをして取り組んだのはすごい勇気だよね！
お湯がまちをつくっている点では大分と共通してるけども。
かめちゃんの建築ってなんか独特で風格があるんんだけど、そのぶん敷地の選び方とかプログラムとかが追いついていないのかな…と思います。
建築の背景にある思想が土台になって、そうゆうのが建築のカタチに結びついてくると、かめちゃんの造形はすごく力強い存在になる気がします！
この１年間、かめちゃんとの作業通話が１番多くて長かったと思う！おかげさまで頑張れました。ありがとう。これからもよろしくね！！

寺西遥夏